

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-103246

(P2000-103246A)

(43) 公開日 平成12年4月11日 (2000.4.11)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	チーコード (参考)
B 6 0 K 17/06		B 6 0 K 17/06	A 3 D 0 3 9
F 1 6 H 9/12		F 1 6 H 9/12	B 3 J 0 5 0
57/02	5 4 1	57/02	5 4 1 G 3 J 0 6 3

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願平10-274961	(71) 出願人	000000974 川崎重工業株式会社 兵庫県神戸市中央区東川崎町3丁目1番1号
(22) 出願日	平成10年9月29日 (1998.9.29)	(72) 発明者	南 徹 兵庫県明石市川崎町1番1号 川崎重工業株式会社明石工場内
		(72) 発明者	竹上 五男 兵庫県明石市川崎町1番1号 川崎重工業株式会社明石工場内
		(74) 代理人	100065868 弁理士 角田 嘉宏 (外5名)

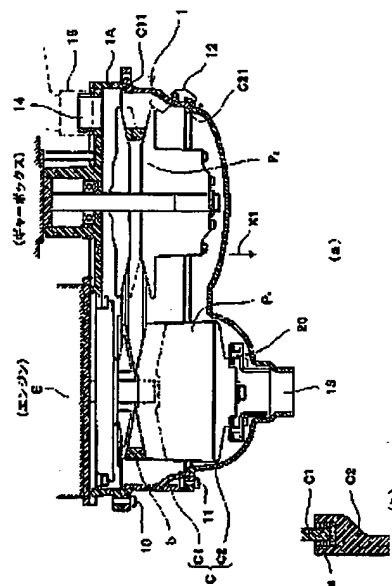
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ベルトコンバータのカバー構造

(57) 【要約】

【課題】 駆動ベルトの点検あるいは交換が容易に行えるようなベルトコンバータのカバー構造を提供することを目的とする。

【解決手段】 ベルトコンバータBの交速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーCの、該カバーCを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、このカバーCを、ベルトコンバータの外周部分を覆う筒状部C1とその側面部C2に分割した。



(2)

特開2000-103246

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーであり、該カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、

上記カバーを、ベルトコンバータの外周部分を覆う筒状部分と、その側面を覆う側面部分とに分割し、上記筒状部分を、ベルトコンバータハウジングの一部を構成する他方の側面側に配置された部材に、取着手段によって取着するとともに、その筒状部分に前記側面部分を取着手段で取着したことを特徴とするベルトコンバータのカバー構造。

【請求項2】 前記側面部分を、筒状部分から取り外した状態において、当該取り外した方向から内部のプーリが視認できるようになっていることを特徴とする請求項1記載のベルトコンバータのカバー構造。

【請求項3】 前記筒状部分へ側面部分へ取着する前記取着手段の少なくとも一つが、板バネを湾曲させたクランプ型の固定金具で構成されていることを特徴とする請求項1又は2記載のベルトコンバータのカバー構造。

【請求項4】 前記筒状部分へ側面部分を取着する両者の取着面が、凹凸状の嵌め合い構造になっており、この二つの部材の嵌合面の間にシール部材が外装されていることを特徴とする請求項1～3のいずれか1の項に記載のベルトコンバータのカバー構造。

【請求項5】 ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、

上記カバーを、二つのプーリの回転中心を結ぶ線で上下に分割するとともに、該カバーとその内方のプーリを含む收容物との間であってベルトの取り出し時の通過経路に、ベルトを通過させる隙間が形成されていることを特徴とするベルトコンバータのカバー構造。

【請求項6】 ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、

上記カバーを、その内部に配置されている少なくとも一方のプーリ部分の外周方に位置する部分に、該プーリが取り出せる大きさを有する点検窓カバーを別体となるように分割したことを特徴とするベルトコンバータのカバー構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、三輪又は四輪作業車、三輪又は四輪レジャービークル、あるいはスノーモ

2

ビル等の車両（この明細書において小型ビークルという）に変速装置として搭載されるベルトコンバータ（ベルト式無段変速装置）のカバーの構造に関し、特にカバーの分割構造に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】 従来から、実開昭63-179296号に記載されるような小型ビークルがあり、この小型ビークルでは、変速装置として、構造が簡単で、変速操作が不要で、且つ変速時にショックがない等の理由から、ベルトコンバータが採用されている。

【0003】 このベルトコンバータは、内部に砂、塵芥等が侵入しないように、全体がハウジングで覆われ、このハウジング内に、エンジンの駆動軸によって駆動される可動式のプーリ（この明細書において可動プーリという）からなる駆動プーリP₁と、駆動ベルトbを介して上記駆動プーリP₁により駆動される可動プーリからなる従動プーリP₂と、これら2つのプーリP₁、P₂を連結する上記駆動ベルトbとが配設されている。

【0004】 一般に上記ベルトコンバータBのハウジング1は、図9に図示するように、通常、金属で構成されているエンジン側のエンジン側壁部1Aと、このエンジン側壁部1Aを覆うボウル状の一体のカバーCによって構成されて、このカバーCは、上記各可動プーリ及び駆動ベルトの外周方を覆う筒形の外周部分と反エンジン側の側面方を覆う側面部分から形成されている。

【0005】 ところで、上記ベルトコンバータが、小型作業車両のように、シートの前や後方の荷台の下位置に配置されていると、上記ベルトコンバータBのカバーCを取り外す場合、カバーを取り外し方向にショックアブソーバ等の障害物があることから、まず、車両をジャッキアップした状態にして、タイヤとショックアブソーバを取り外し、必要に応じてワイヤ類を取り外して後、目的の該カバーCを取り外す必要がある。また、取り付ける際には、その逆の手順で取着してゆき、ワイヤを取り外した場合には、その取着と調整をおこなった後、最後にタイヤを取りつけてジャッキを下ろさなければならない。従って、このカバーの脱着には、カバー以外の種々の部品の脱着と調整が必要となることから、かなりの手間と煩雑な作業が必要となる。

【0006】 ところが、上述のようなカバーの脱着は、消耗品である駆動ベルトの定期点検とそれに基づく交換の際には、必ず必要となり、従って、一定期間毎に、甚だ面倒な作業が要求されることになる。

【0007】 本発明は、このような状況に鑑みおこなわれたもので、駆動ベルトの点検あるいは交換が容易に行えるようなベルトコンバータのカバー構造を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明の発明にかかるベ

(3)

特開2000-103246

3

ルトコンバータのカバー構造は、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーであり、該カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、上記カバーを、ベルトコンバータの外周部分を覆う筒状部分と、その側面を覆う側面部分とに分割し、上記筒状部分を、ベルトコンバータのハウジングの一部を構成する他方の側面側に配置された部材に、取着手段によって取着するとともに、その筒状部分に前記側面部分を取着手段で取着したことを特徴とする。

【0009】しかし、このように構成されたベルトコンバータのカバー構造によると、上述のようにカバーが筒状部分と側面部分に分割されているため、カバーを取り外す際にも、取り外し方向に、上記カバーの側面部分のみ移動させるスペースがあれば取り外せ、この状態において、ベルトの点検と交換をすることができる。また、上記側面部分を取り外しても筒状部分はそのまま所定の状態で取着された状態で維持されるため、取着する際に、容易に且つ短時間で取着することができる。

【0010】また、本第2の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造は、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、上記カバーを、二つのプーリの回転中心を結ぶ線に上下に分割するとともに、該カバーとその内方のプーリを含む収容物との間であってベルトの取り出し時の通過経路に、ベルトを通過させる隙間が形成されていることを特徴とする。

【0011】しかし、このように構成されたベルトコンバータのカバー構造によると、上述のようにカバーが上下に分割されているため、カバーを取り外す際にも、下方あるいは上方への取り外し方向において、上記分割したカバーの上部あるいは下部のみ移動させるスペースがあれば取り外せ、この状態において、ベルトの点検と交換をすることができる。

【0012】さらに、本第3の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造は、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する小型ビークルのベルトコンバータのカバー構造であって、上記カバーを、その内部に配置されている少なくとも一方のプーリ部分の外側方に位置する部分に、該プーリが取り出せる大きさを有する点検窓カバーを別体となるように分割したことを特徴とする。

【0013】しかし、このように構成されたベルトコンバータのカバー構造によると、上述のように点検窓カバーが分割されているため、点検窓カバーの側方の上下あるいは左右のいずれかに当該点検窓カバーを移動させ

4

るスペースさえあれば、この点検窓カバーのみを取り外すことができ、取り外した状態で、ベルトおよびプーリの点検ができ、また必要に応じてベルトあるいはプーリを交換することができる。従って、非常に狭いスペースがあれば、点検と交換を実施することができる構成となる。

【0014】従って、上記本第1～3の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造によると、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーが、カバーを取り外す方向に障害物が配置された構造を有する場合であっても、従来のように、カバー以外の種々の部品を脱着することなく、簡単にベルトの点検あるいは点検と交換等が可能となる。

【0015】

【発明の実施の形態】上記本第1の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造の一つの実施の形態として、側面部分を、筒状部分から取り外した状態において、当該取り外した方向から内部のプーリが視認できるようになっていると、ベルトおよびプーリの点検が容易にでき、且つこれらの交換を容易に行うことができる。

【0016】上記本第1の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造の一つの実施の形態として、筒状部分へ側面部分へ取着する前記取着手段の少なくとも一つが、板バネを湾曲させたクランプ型の固定金具で構成されていると、より容易に側面部分の脱着が可能となる。

【0017】上記本第1の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造の一つの実施の形態として、筒状部分へ側面部分を取着する両者の取着面が、凹凸状の嵌め合い構造になっており、この二つの部材の嵌合面の間にシール部材が介装されていると、内部に塵芥の進入が防止できる点で、またカバー全体の剛性を向上させる上で優れた構成となる。

【0018】

【実施例】以下、本発明の実施例にかかるベルトコンバータのカバー構造を、小型ビークルの一種である小型四輪作業車両に搭載されたベルトコンバータの場合を例にとり、図面を参照しながら説明する。

【0019】図1は本実施例にかかる小型四輪作業車両の全体の外観構成を示す斜視図、図2は図1に示す小型四輪作業車両の後輪のみを二点鎖線で表した全体側面図、図3は同じく荷台部分の床面を削除し且つベルトコンバータのカバーの上半分を削除して表した全体平面図である。

【0020】図1～3において、Vは小型四輪作業車両で、この小型四輪作業車両Vは、シートS後方で荷台の下方部位に配置されたエンジンEからの動力を、該エンジンEの左側方に配置されたベルトコンバータBで所望の速度に変速し、デファレンシャルギヤD、と左右の駆動軸D₁を介して、後輪H₁を駆動するように構成されている。また、この小型四輪作業車両Vは、四輪駆動型の

(4)

特開2000-103246

5

車両であることから、上記デファレンシャルギヤD。が収納されたギアボックス58から前方に延設されたプロペラシャフト（図示せず）を介して、前輪Hfをも駆動できるように構成されている。

【0021】そして、この小型四輪作業車両Vの場合、ベルトコンベータBのハウジング1は、図4(a)に図示するように、エンジンE側に設けられたエンジン側壁部1Aとこれに取着されるカバーCから構成され、このエンジン側壁部1Aは、エンジンEの側壁を兼ね周囲に壁が立設され且つ該壁で囲まれた中がほぼフラットな面を有する。また、上記カバーCは、上記エンジン側壁部1Aの反エンジンE側にあって内部に可動ブリー（駆動ブリーと従動ブリー）P₁、P₂を内包するボウル（お碗）状に左方に突出した形態を有している。そして、上記カバーCは、上記エンジン側壁部1Aに対して、図示しないシール部材を介して密着自在に取着されているが、図2、図3（図3において矢印Fは車両の前方方向を表す）に図示するように、このカバーCの外方（図3において下方）には、車両の長手方向に配置されたリーフスプリング1と上下に配置されたショックアブソーバS₁が、またその外側（図3において下側）には左側の後輪Hrが、それぞれ該カバーCを図3において車両の左側方へ取り外す場合に障害物となる位置に配置されている。さらに、このカバーCの上方には、図2に図示するように、荷台56の床面Fを形成する金属製の板材が配設され、カバーCを上方に取り外す場合の障害物となっている。また、図2、図3に図示するように、該カバーCの後方の少し離れた位置にはマフラーMが配設され、さらに、カバーCの後方でやや上方の位置には、車両のメインクロスメンバーとなる太径の丸パイプ30が配設されて、それぞれカバーCを外す場合の障害物になっている。

【0022】ところで、このカバーCは、上記ベルトコンベータ部分の並大部分断面図である図4(a)に図示し、カバーの正面図である図5あるいは分解斜視図である図6に図示するように、ベルトコンベータの外周部分を覆う筒状部C1とその側面部C2に分割されている。そして、上記筒状部C1は、外形が図6に図示するようにエンジン側壁部1Aの外形に合致した略長円状で、上記エンジンE側の側壁を兼ねたエンジン側壁部1Aに対して、固定用のボルト10（図4(a)参照）で固定されており、浅いボウル状になった上記側面部C2は、上記筒状部C1に固定ボルト11（図4(a)参照）と板バネを湾曲させたクランプ型の固定金具12によって、固定されている。あるいは上記クランプ型の固定金具12を用いず、図5および図6にボルト孔11Aを図示するように、このボルト孔11Aを用いて固定ボルト111のみによって、固定してもよい。そして、図4(a)に図示するように、上記エンジン側壁部1Aの一方の側面側の端部は、上記筒状部C1の該エンジン側壁部側の端

6

面に周設された断面U字状の溝C11内に略気密状に、また、上記筒状部C1の側面部側の端部は、図4(b)に図示するように、該側面部C2の端部に周設された断面U字状の溝C21内に略気密状に、それぞれ接合部が凹凸状の嵌め合い構造によって、接合されている。また、上記嵌め合い構造の各接合面の間には、CRスポンジゴムからなるシール部材mが介装されている。また、上記側面部C2の駆動ブリーP₁、側方部分には、筒状になった冷却風の取入口13が開口しているとともに、該駆動ブリーP₁、の上記取入口13側の端部には、遠心型の冷却空気吸入用のファン20が形成されている。また、上記エンジン側壁部1Aには、上記取入口13から供給され内部を冷却した空気を排出するための排出口14が形成され、この排出口14は換気パイプ15を介して外部と連通している。

【0023】ところで、上記筒状部C1の側面の開口O1、つまり、側面部C2を取り外した後に筒状部C1の側方に形成される開口は、筒状部C1をエンジン側壁部1Aに取着したままで、少なくとも駆動ブリーP₁と従動ブリーP₂、のいずれか一方のブリーを軸方向に移動でき且つベルトbを側方へ取り外せる大きさを有する。更に、上記開口O1が駆動ブリーP₁、と従動ブリーP₂、の両方を側方へ取り外せる大きさに有する場合には、一層容易にベルトbの取り外しができるとともにブリーの点検と交換も可能となる。

【0024】従って、このようにカバーCが、該カバーCの厚み方向に2つに別部材として、つまり、筒状部C1と側面部C2に分割されていると、ベルトコンベータB内のベルトbを点検あるいは交換しようとする場合には、側面部C2の周りに配設されている上記固定ボルト11（および採用されている場合には板バネ式の固定金具12）を外して、カバーCに比べて容積的に小さい側面部C2のみを一方の側面方（図4(a)において矢印X1の方向参照）に、あるいは側面方と下方（あるいは上方）等の複合的な方向に適宜移動させれば、上記ショックアブソーバS₁がカバーCの一方の側面方に配設されていても、これらの部材を回避して取り外すことができる。

【0025】ところで、別の実施例として、上記お碗（ボウル）状に左方に突出したカバーCを、図7に図示するように、可動ブリーP₁、P₂（図3、図4(a)参照）の各中心線を分割線が通過するように上部C10と下部C11に分割し、カバーCを構成する上部C10と下部C11を上記エンジン側壁部1A（図6参照）に対して固定孔11Aを利用して図示しない固定ボルト等でそれぞれ固定するような構成にしてもよい。また、この場合、上部C10と下部C11を図7(a)に図示するように、両者を固定する固定孔11Bを設けて図示しない固定ボルトで固定するような構成にすると全体の剛性を高める上で好ましい。上記いずれの場合にも、上記実

(5)

特開2000-103246

7

施例と同じく、各部材の接合部に凹凸状の嵌め合い構造を設け、また、図7(c)に図示するように、エンジン側壁部1Aとの間あるいは上部C10と下部C11との嵌め合い構造の接合面にはシール部材mを配して、気密性を高めるよう構成する。

【0026】上記構成において、カバーCのうち取り外された残りの部分とその内方に収容されている可動プーリP₁、P₂あるいは上記ファン20との間にベルトhを通過し得るだけの隙間を形成しておきさえすれば、上記構成により、カバーCを構成する上部C10あるいは下部C11のいずれかのみを取り外せばベルトの点検あるいは必要な場合にはベルトの交換を容易におこなうことができる。もちろん、ファン20を脱着自在な構造としておいて、該ファン20を取り外して、ベルトhを取り外すような構造にしてもよい。

【0027】あるいは、図8に図示するように、カバーCを、一方の可動プーリ（図8の実施例では従動プーリとなる可動プーリP₂）部分の側方に該可動プーリの側面全体が望むような大きさの点検窓カバー部C21のみ主要部分（カバーCから点検窓カバー部C21を除いた部分）C20から分割してもよい。この実施例の場合には、上記主要部C20を上記エンジン側壁部C20にボルト孔11Aを用いて図示しない固定ボルト等で固定し、しかる後この主要部C20に上記点検窓カバー部C21をボルト孔11Bを用いて固定ボルト等で固定するよう構成している。もちろん、この場合にも、上記実施例と同じく接合部に凹凸状の嵌め合い構造を設けると、容易に気密性の高い構成とすることができ、かかる構成により、点検窓カバーC21のみを取り外せば、1〜2ヶ月の間隔で行われるベルトの点検が容易にできる。また、駆動プーリおよび従動プーリの両方の側方にそれぞれプーリが通過できる開口O2を設け、それらの開口O2を覆うような点検窓カバーカバーC21を主要部分C20から分割してもよい。かかる構成により、ベルトの点検と共にベルトの交換が一層容易にでき、又プーリの交換も可能である。

【0028】さらに、図示しないが、カバーCを、車両の長手方向の前後に前部と後部に二分割したものであってよく、この場合にも凹凸状の嵌め合い構造を設けるとともに、エンジン側壁部との間にはシール部材を配設するのがよい。

【0029】上記図7の実施例の場合にも、また、図示しない上記前後に分割した形態のものでも、上述した図1〜図6に図示する第1の実施例と同様に、ベルトコンバータ内のベルトを点検あるいは交換しようとする場合には、上記固定ボルト等を外して、カバーCに対して容積的に小さいカバーCの一部のみを取り外して、ベルトコンバータ内部を点検し必要な場合にはベルトを交換することができる。また、図示しない上記前後に分割した形態のもの場合には、カバーの前部あるいは後部のい

8

れかのみを取り外せばベルトの点検あるいは該点検とベルトの交換を容易におこなうことができる。

【0030】ところで、このベルトコンバータのカバー構造が採用されている図1に図示する小型四輪作業車両Vの概略の構成について図2〜図3を参照しながら説明すると、車両の前部には、シートSが配置され、このシートSの前方やや上方位置には、操舵用のステアリングホイール51が配置されるとともに、図2に図示するように該ステアリングホイール51の近傍に上記ベルトコンバータBを遠隔操作するための変速レバー52が配置されている。そして、シートSの下方を除く周囲は、パイプフレーム53で囲われ、シート後方のパイプフレーム53のうち左方に立設されているパイプ53aは、上記ベルトコンバータBのカバーCに形成されている取入口13に図示しない接続チューブ等を介して接続され、塵芥の少ない空気を供給できるよう構成されている。また、シート後方のパイプフレーム53のうち右方に立設されているパイプ53bは、シートS下方に配置されたエアークリーナ54と接続チューブ54aを介してエンジンEの図示しないキャブレターの空気取入口に接続されている。

【0031】また、シートS後方には、荷物を積むための上述した荷台56が配置され、この実施例にかかる車両の荷台56は、図2に図示する揺動軸56aを介して、矢印Rで示す方向に揺動（ダンブ）動作可能に構成されている。従って、上述したベルトコンバータの点検あるいはエンジンEの点検に際しては、この荷台56に荷物が積載されていない場合には該荷台56を上方に揺動させた状態で、上方からもおこなうことができる点で優れた構成となっている。しかし、荷台56上に荷物が載置されている状態では上記揺動動作ができないため、この場合には車両底面方から点検等おこなうことになる。

【0032】また、上記荷台56の床面F下方には、上述したベルトコンバータBを一体に付設したエンジンEが載置されるとともに、このエンジンE後方には、ギヤボックス58が配置されている。そして、このギヤボックス58内には上記デファレンシャルギヤD、が内蔵され、上記ベルトコンバータB側から駆動軸D₁に動力を伝達するよう構成されている。また、このギヤボックス58のさらに後方には上述したマフラーMが配置されている。そして、このマフラーMは、上記エンジンEの排気口から排気管59によって接続されて、エンジンEからの排気ガスをマフラーMで消音して排出するよう構成されている。

【0033】また、上記駆動軸D₁は、回転可能に保持するベアリング（図示せず）を介して、リーフスプリングLによって車体側に懸架されるとともに、その先端には上述した後輪H_rが一体に回転可能に取着されている。

(6)

特開2000-103246

9

10

【0034】ところで、この実施例では、図1に図示するような小型四輪作業車両に採用した場合について説明したが、この種のベルトコンバータが採用されている種々のビークル。例えば、不整地走行車両あるいはスノーモビル等にも適用できることは言うまでもなく、且つ、同様の作用効果を奏する。そして、ベルトコンバータのカバーを、図6～図8のいずれの形態に分割するかは、搭載される車両のフレームあるいは各種構成部品の構造によって、あるいはベルトコンバータの配置される部位によって適宜選択できることは言うまでもない。

【0035】

【発明の効果】本発明にかかるベルトコンバータのカバー構造によれば、ベルトコンバータの点検とベルトの交換時に、従来のようにその周囲に配置されているショックアブソーバや車輪あるいはマフラー等を取り外すことなく、またカバー全体を取り外さなくとも、単にカバーを構成する一部のみ取り外すことによって、ベルトコンバータの内部の点検とベルトの交換が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本実施例にかかる小型四輪作業車両の全体的外観構成を示す斜視図である。

【図2】 図1に示す小型四輪作業車両の後輪のみを二点鎖線で表した全体側面図である。

【図3】 図1に示す小型四輪作業車両の荷台部分の床*

*面を削除し且つベルトコンバータのカバーの上半分を削除して表した全体平面図である。

【図4】 (a)はベルトコンバータのカバーの可動ブーリの軸を軸心として断面して上方から見た要部拡大平面図、(b)は(a)のカバーの嵌め合い部分の構造を示す部分拡大図である。

【図5】 図4に示すベルトコンバータのカバーを、図4の1-1方向から見た図(カバーの正面図)である。

【図6】 図4に示すベルトコンバータの要部の分解斜視図である。

【図7】 別の実施例にかかるカバー構造を示すカバーの分解斜視図で、(a)は分解した状態のカバーを示す図、(b)は分解前の状態(組立てた状態)を示す斜視図、(c)は嵌め合い部分の構造を示す部分拡大図である。

【図8】 別の実施例にかかるカバー構造を示すカバーの分解斜視図である。

【図9】 従来のカバー開閉構造の構成を示す透視的に表した小型滑走履の前部の部分拡大図である。

【符号の説明】

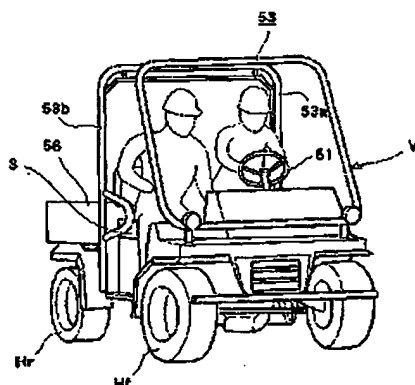
B……ベルトコンバータ

C……カバー

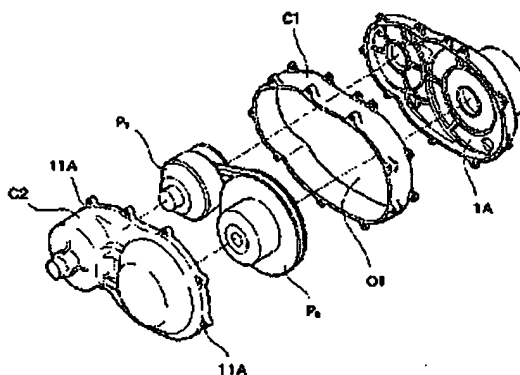
C1……筒状部

C2……側面部

【図1】



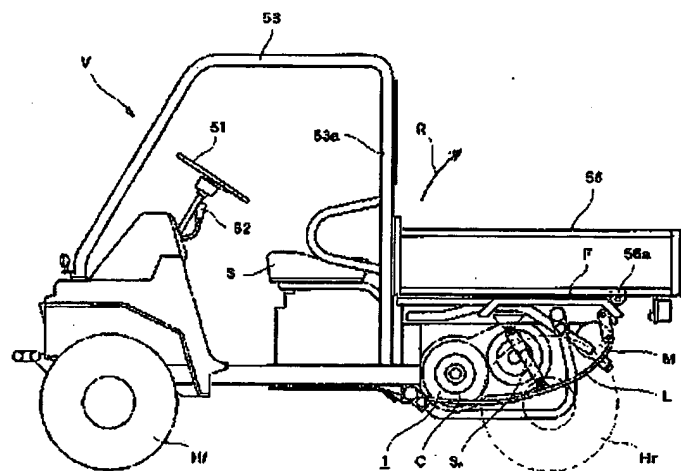
【図6】



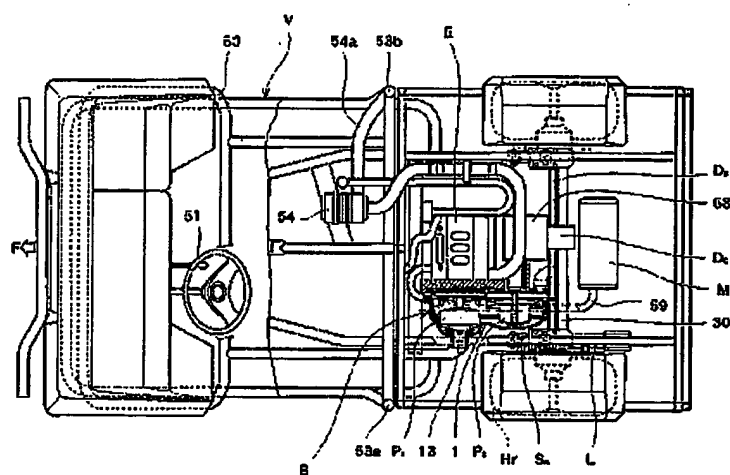
(7)

特開2000-103246

【図2】



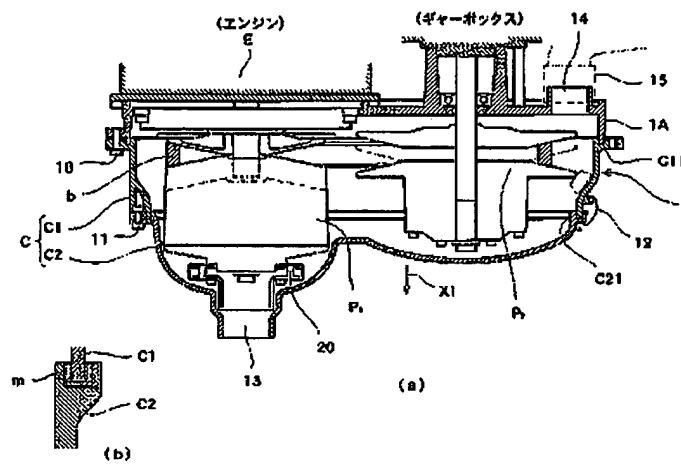
【図3】



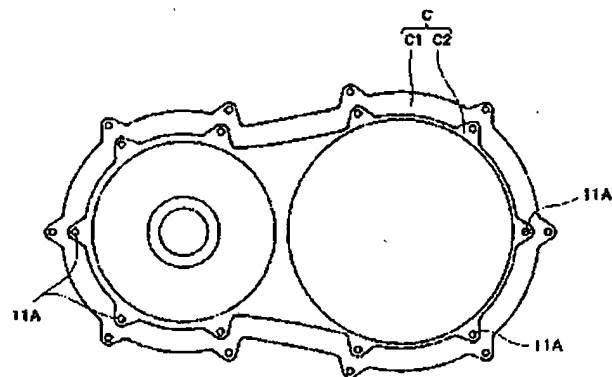
(8)

特開2000-103246

【図4】



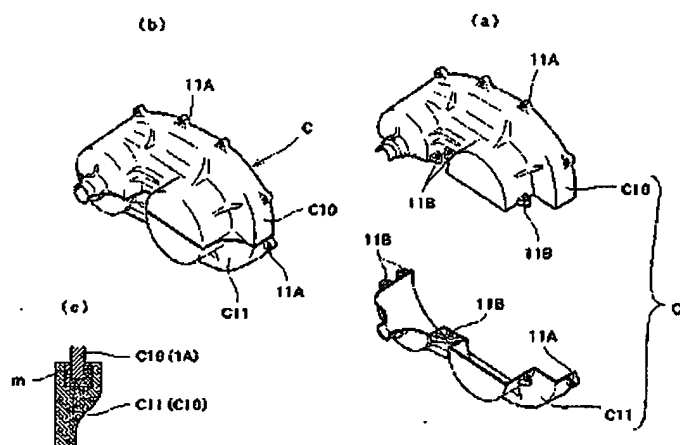
【図5】



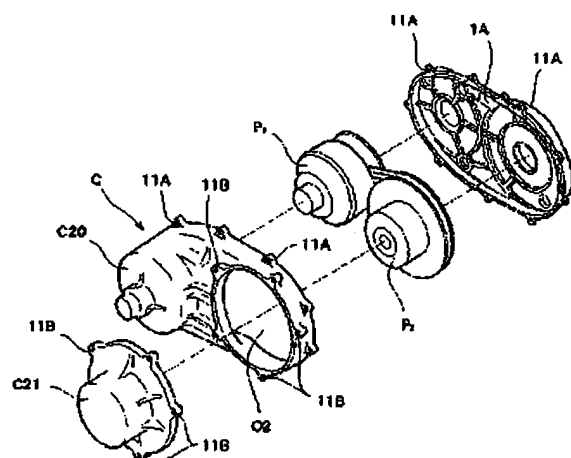
(9)

特開 2000-103246

【圖 7】



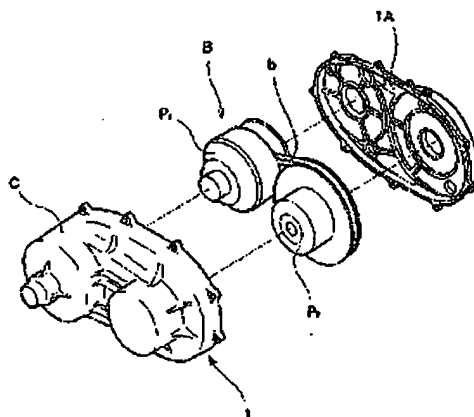
【图8】



(10)

特開2000-103246

【図9】



【手続補正書】

【提出日】平成11年7月9日（1999. 7. 9）

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーであり、該カバーを取り外す方向に、阻害物としてショックアブソーバが配置され、且つカバーの上方に荷台が配置され、さらにカバーを取り外す方向とは反対側にはエンジンが配置された構造を有する小型四輪作業車両のベルトコンバータのカバー構造であって、

上記カバーが内部の変速機構部分と接触することなく設けられ、このカバーを、ベルトコンバータの外周部分を覆う筒状部分と、その側面を覆う側面部分とに分割し、上記筒状部分を、ベルトコンバータのハウジングの一部を構成する他方の側面側に配置された部材に、取着手段によって取着するとともに、その筒状部分に前記一方の側面部分を取着手段で取着し、該一方の側面部分を、筒状部分から取り外した状態において、当該取り外した方向から内部のプーリ及びベルトが交換できるように構成されていることを特徴とするベルトコンバータのカバー構造。

【請求項2】 前記筒状部分へ側面部分へ取着する前記取着手段の少なくとも一つが、板バネを湾曲させたクランプ型の固定金具で構成されていることを特徴とする請求項1記載のベルトコンバータのカバー構造。

【請求項3】 前記筒状部分へ側面部分を取着する両者の取着面が、凹凸状の嵌め合い構造になっており、この二つの部材の嵌合面の間にシール部材が介装されていることを特徴とする請求項1又は2記載のベルトコンバータのカバー構造。

【請求項4】 ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に阻害物が配置された構造を有する小型四輪作業車両のベルトコンバータのカバー構造であって、

上記カバーが内部の変速機構部分と接触することなく設けられ、このカバーを、二つのプーリの回転中心を結ぶ線で上下に分割するとともに、該カバーとその内方のプーリを含む収容物との間であってベルトの取り出し時の通過経路に、ベルトを通過させる隙間が形成されていることを特徴とするベルトコンバータのカバー構造。

【請求項5】 ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に阻害物が配置された構造を有する小型四輪作業車両のベルトコンバータのカバー構造であって、

上記カバーが変速機構部分と接触することなく設けられ、該カバーに対して、その内部に配置されている一方のプーリ部分の外側方に位置する部分に、該プーリが取り出せる大きさを有する点検窓カバーを別体となるように、該カバーと分割して設けたことを特徴とするベルトコンバータのカバー構造。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

(11)

特開2000-103246

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】本第1の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造は、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーであり、該カバーを取り外す方向に、阻害物としてショックアブソーバが配置され、且つカバーの上方に荷台が配置され、さらにカバーを取り外す方向とは反対側にはエンジンが配置された構造を有する小型四輪作業車両のベルトコンバータのカバー構造であって、上記カバーが内部の変速機構部分と接触することなく設けられ、このカバーを、ベルトコンバータの外周部分を覆う筒状部分と、その側面を覆う側面部分とに分割し、上記筒状部分を、ベルトコンバータのハウジングの一部を構成する他方の側面側に配置された部材に、取着手段によって取着するとともに、その筒状部分に前記一方の側面部分を取着手段で取着し、該一方の側面部分を、筒状部分から取り外した状態において、当該取り外した方向から内部のプーリ及びベルトが交換できるように構成されていることを特徴とする

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】また、本第2の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造は、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に阻害物が配置された構造*

*を有する小型四輪作業車両のベルトコンバータのカバー構造であって、上記カバーが内部の変速機構部分と接触することなく設けられ、このカバーを、二つのプーリの回転中心を結ぶ線で上下に分割するとともに、該カバーとその内方のプーリを含む収容物との間であってベルトの取り出し時の通過経路に、ベルトを通過させる隙間が形成されていることを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】さらに、本第3の発明にかかるベルトコンバータのカバー構造は、ベルトコンバータの変速機構部分の外周方から少なくとも一方の側面にかけて覆うカバーの、該カバーを取り外す方向に阻害物が配置された構造を有する小型四輪作業車両のベルトコンバータのカバー構造であって、上記カバーが変速機構部分と接触することなく設けられ、該カバーに対して、その内部に配置されている一方のプーリ部分の外側方に位置する部分に、該プーリが取り出せる大きさを有する点検窓カバーを別体となるように、該カバーと分割して設けたことを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正内容】

【0015】

【発明の実施の形態】

フロントページの続き

Fターム(参考) 3D039 AA04 AB21 AC34 AC65 AD15

AD53

3J050 AA02 BA03 CE06 DA05

3J063 AA12 AB22 AC03 BA01 BA07

CA01 CD45 XA11